

近

年、大学生を抱える親の世帯所得が減少する一方、大学の学費は上昇が続いている。その結果、親の所得では学費を賄い切れず、学生が奨学金を借りることが大学進学に不可欠となりつつある。

しかし、返済の負担は決して軽くなく、日本学生支援機構の奨学金の3カ月以上の延滞債権は19万4153件に及ぶ（同機構「平成24年度奨学金の延滞者に関する属性調査結果」より、以下同じ）。

延滞者のうち、常勤社（職）員として働いている者が35・6%しかいないなど、延滞の背景には若者を取り巻く雇用情勢の厳しさがうかがえる。しかし、奨学金を借りる際の本人の意識が不十分なこととも延滞の理由に挙げられる。

奨学金の返還義務について「いつ知ったか」という問いに対して、「貸与手続きを行う前」と答えた者は、無延滞者では90・6%であったが、延滞者は54・7%しかなかった。裏を返せば45・3%は借金と知らずに貸与手続きをしたというのである。

奨学金は住宅ローンに次いで、

数字は語る

大和総研金融調査部
研究員

是枝俊悟

人生2番目に大きな借金 奨学金を利用する前に 金融教育の徹底を

45.3%

奨学金の返済延滞者のうち返還義務を知らずに 手続きした者の割合

奨学金の返済延滞者のうち「貸与手続きを行う前に返還義務を知った」と答えなかった者の割合。（独）日本学生支援機構「平成24年度奨学金の延滞者に関する属性調査結果」

「人生で2番目に大きな借金」ともいえる。住宅ローンを借りる際は、ほとんどの人はどの住宅を購入するか、家賃を払い続けることとの損得やローンを払い続けることが可能かなど、リスクとリターンに鑑み真剣に検討し、意思決定するだろう。

奨学金を借りる際にも、どの大学に行くべきかや、高卒で働く場合との損得、返済を続けられるかなどを検討すべきだ。

これらを考慮した上で奨学金を借りるのと、奨学金を借金だと意識しないで漫然と借りてしまうのでは、受験する大学の選択や大学入試に臨む際の本気度、また大学生活の過ごし方も大きく変わってくるのではないか。

残念ながら、今の学校教育では、大学進学に「投資」することのリスク・リターンを検討できるほどの金融教育は行われていない。十分な理解もなく奨学金を借りる学生がいるのも無理はない。

「人生で2番目に大きな借金」を主体的に判断し、有効活用できるようにするために、高校卒業までに金融教育を徹底すべきだ。